

今回の討論会の存在を知ったのは偶然だった。GLS連続公開セミナー主催のシンポジウム「日本は中国をどう見るべきか」に行った際、配布された資料の中に参加を呼びかけるチラシが入っていた。東アジアに興味のある者をターゲットにチラシを配布するのは理にかなっている。ターゲットにあてはまる私はこのチラシに興味を持って、申し込みの締め切り当日に応募したのだった。夏学期の終わりが迫り、試験やレポートに追われていた身としては、参加に躊躇する気持ちもあったが、結果としてはそんな躊躇を跳ね除けて参加したことは大正解だったと言えるだろう。政治レベルで難しい局面にある日韓両国の学生が、自由な立場で面と向かって議論するという行為自体に大きな意義があるということが討論会の存在理由のひとつであると思うが、実際に行ってみて改めてその意義と価値の大きさを実感した。一部の東大側メンバーとは事前に集まって打ち合わせを行ったものの、ソウル大学のメンバーはもちろん、多くの東大側のメンバーと会ったのも討論会当日であったが、事前にメールやFacebookを通じて行ったコミュニケーションより、討論会後の交流も含めて、実際に顔を合わせて話したひとつひとつが格段に刺激的でとても楽しかった。

前述の通り、私は締め切り当日に参加を決めたのであるが、所属した日本語チームではその段階で参加メンバーが確定しているだけであった。自分たちが行う討論会である以上、本番まで約二週間で何を行うべきか自らが考えるべきであるが、当初はほぼ顔も見たことのない同士で様子見のような期間があり、時間を無駄にしてしまった。遅ればせながら私は大学院生活を能動的に過ごす決意したはずの自分を思い出し、また大学院生として、チームの半数以上を学部生が占める今回のチームメンバーリストをみても行動すべきと思いついた。メンバーに呼びかけ、メーリングリストを作り、事前の打ち合わせをして各自の役割や討論会の進め方、緊急時のフォローアップを決めた。討論会の内容はソウル大の日本語チームが作成してくれることになったが、本番前には要点のみの連携であったため、内容は各自で考えることとした。そうして本番を迎えたのであるが、振り返れば反省点も多い。会場である福武ホールの仕様を考慮すると、大人数では話しにくいのではないかと懸念は当たり、日韓あわせて20名の日本語チームが2チームに分かれて討論したものの、話が聞こえづらく、かなり密集するか、さらにチームを分けた方がよかったかもしれない。ただ、人数が多いことで討論に厚みが出るという利点もあった。また、時間配分や討論の方向性にもより高い配慮が必要であった。私のいたチームではお互いへの興味が高じて話したいことがあふれ出るような状況で、討論としてまとまりに欠けてしまったかもしれない。討論後の発表で結論を出すことにこだわらず、しっかりと討論を行うことそのものに注力したチームがあったことを知り、もっと柔軟な思考で望むことの重要性を感じた。こういった点も事前に日韓チーム同士でもっと打ち合わせできればよかったと思う。

しかしながら、初めての試みという今回の討論会を振り返ると、日韓両国の学生が心置きなく語れる時期に交流を持ち、この先長く続くであろうつながりを築けたことはとても貴重な体験であり、記念すべき初回に参加することを決めた自分の決断を褒めたいくらいである。今後も継続的に実施することが双方の学生にとって大きな意味を持ち、磐石な関係の礎となるであろうことは疑いようもない。日韓は地理的にも心理的にも離れられず、協力していかなければならない絶対的パートナーである。歴史問題をはじめ、現代の経済関係においても、山積する問題を超越していく必要がある。互いを知ろうとする機会を持たないでともに歩めるか、そんなはずはない。たとえ理解できないことがあることを理解することになったとしても、それが無知よりはるかに価値があることを私たちは知っているのだから、私たちの交流はこれからも絶対続くはずなのである。

## 日韓の近さを実感した学生討論会

幾田英夫【日本語】  
大学院教育学研究科修士課程 2 年

去る 8 月 2 日、ソウル大学から約 30 名の学生が来日、東京大学との学生討論会が開催されることとなり、筆者はそのイベントに参加することができて幸運であった。

ここでは、事後報告として、筆者の所属した日本語チームの様子を中心として気持ちのおもむくままに書いていきたい。

当日はプログラムとしては 14 時 30 分からであったが、日本語チームは打合せをするため 13 時 30 分に集まり、話し合う内容や進め方について打合わせた。



打合せの時間も過ぎ、開会となる。最初の先生のあいさつの中で韓国側で放射線の影響を気にして参加をとりやめた学生が相当数いることを知った。日本は放射能汚染された国とのイメージが付いてしまったのだろうか。最終的にソウル大学からの参加者は 33 名となったとのことである。

今回の学生討論会では、全体を英語・韓国語・日本語の使用言語で班を分けるという形であった。そのため自分のように外国語が苦手であっても参加できるようになった。これは本当にありがたかった。受付では名札に班の言語と、自分の使用可能な言語をシールにして貼った。見た感じだが、日本人で韓国語チームの人と韓国人で日本語チームの人は、英語・日本語・韓国語の 3 か国語が OK となっている人が多いようであった。

### 大企業至上主義の韓国の大学生

班別に分かれ、日本語チームではまずソウル大学から問題提起として、大学の意味と就職の問題が採りあげられた。事前にソウル大学での取材の動画を見せてもらった。就職活動に苦しむソウル大学生の動画であったが、日本以上に厳しい就職活動を強いられているようである。「何のためにソウル大学に入ったのかわからない。」とこぼす学生もいて、もはやソウル大学の優位性はないという。実際は、この発言は極端なものらしいが、SKY と言われるグループの大学<sup>1</sup>でないともともな就職は厳しいとのことである。

就職について討論した際、日韓の考え方の違いが出ておもしろかったことがある。それは日本ではやりたい仕事は何かを考えながら就職活動に入っていくのに対し、韓国ではそのように考えない。とにかく大企業でないともともな就職とは言えないと考えていることである。中小企業はいつまで続くかわからないから初めから眼中にないようである。韓国では日本のような「老舗」をありがたがる風潮はないので「創業文政元年」のような古いことを看板にすることはない。商売は最終ステータスでない。官僚のようなよりステータスの高いような職や立場が得られれば商売は簡単に廃業される。よって韓国では中小企業のような会社だといつ廃業してもおかしくないような会社に就職しても絶えず倒産となる危険性がある。企業であっても大企業でないとも将来は安泰ではない。そこで学生はより継続可能性の高い大企業のみを就職先として考える。

<sup>1</sup> S : ソウル大学、K : 高麗大学、Y : 延世大学のこと。韓国のトップ 3 大学をグループにしてこのように言う。

韓国の大学生の就職に対する考え方は、だいたいこのようなものであるようである。

国民性が企業の存続傾向について影響を与え、それが学生の就職行動の考え方として影響しているのであろう。

### 高負担の授業料にあえぐ韓国の大学生

韓国では授業料が高く、家計を逼迫しているということも問題として提起された。学費を工面するために学生はアルバイトに精を出し、それがしばしば学業を圧迫する。日本でもアルバイトと学業の問題はあるものの、アルバイトはやらないと生活そのものが成立しないというものではない。たいていは娯楽の支出に使われる。だから日本ではアルバイトのやりすぎで学業がふるわないというのは自業自得の側面もある。これに対して韓国では本当に生活が成り立たないためにアルバイトをする羽目に追い込まれるのである。アルバイトのために学業がおろそかになるというのは本当にもったいない話であり、国家的損失であろうとも言える。せめて優秀な学生は学業に専念できるように奨学金（貸与ではなくできれば給付）を充実させるべきであろう。

### なぜ韓国は大学進学率が高いのか

これまで述べてきた韓国の就職事情が大きく影響している。韓国の進学率の高さについて、筆者からソウル大学の学生に問いかけた。これに対して返ってきた答えは「企業は大学を出ていない者をまともな人間として見ない。だから大学に行く。」とのことであった。どういう人生になるにせよ、韓国では大学を最低出していないと人間らしい人生は送れない。そこで親は家計的に無理してでも大学に入学させるとのことである。また、大学に入ってもそこからスペックを上げるためにも多くの者は海外留学をする。海外留学経験者はソウル大学学生の50%にもものぼるとのことである。これは東京大学と比較しても明らかに高い<sup>2</sup>。留学者が多いというのはグローバル時代にあってすごいことではあるが、一歩下がって考えると少し怖い気がする。なぜなら、この留学者50%の中には相当無理して留学費用を工面している親もかなりいるものと思われる。今回の討論会では話が出なかったが、韓国ではキログニアップ問題というのものもある。留学は社会構造を歪めてまでするものではないというのは言い過ぎであろうか。

### 政治に対する意識

日本では、宗教と政治に関して公の場で意見を言うことは半ばタブーであると言ってよい。それは、相手はどのような信条を持っているかどうかもわからないので、もし反対意見を持っている人と違う意見を述べた場合、人格的に傷つけかねないからだ。というような意見が東大側から出た時、ソウル大側では信じられないという反応があった。韓国では特に政治については高い関心を持ち、お互いに意見を表明しあうのは普通とのことであった。そもそも日本人は新聞もろくに読まず社会に深い関心のない者も多い。これらが投票率の低さとなって数字に表れるのかもしれない。

韓国では宗教や政治の話題もタブーではないようだ。このあたりは日韓の意識の差を感じた。

### 重くのしかかる兵役

半島は現在、韓国と北朝鮮に北緯38度線で分断されている。これは朝鮮戦争の悲劇によるものであり、現在は「休戦中」である。そこで、韓国・北朝鮮ともに常時戦争の準備を怠らないようにして既に半世紀となっている。

韓国では、男子は大学1年または2年が終了したときに兵役に就くのが普通とのことであり、韓国人としての義務であるとのことである。実際のところ徴兵忌避はやろうと思えばできるらし

<sup>2</sup> 2013年5月1日現在、東大から海外留学中の者は382名（東京大学入試事務室，2013，『東京大学大学案内』p52）

いが、もしそのようなことをすればもはや韓国内では普通に生きていけない。犯罪人のような扱いを受けるとのことで就職も絶対にできなくなるということであった。

兵役は陸・海・空軍で期間が違うものの、約2年間であり、この2年間のうちにこれまで勉強したことが頭から抜けてしまうという話が出た。これは大学教育が途中で断絶していることであり、学習効果がとても悪いことになる。兵役のない社会になるのがベストなのであるが、これは韓国の現状からして非現実的である。兵役中に勉学を続ける方法はないか、通信教育など少しでもいいから兵役中も勉強をする習慣を継続できるか、など今後も韓国が知識社会で発展していくには考えておかなければならない問題であると思った。

## 日韓はむしろ似ている存在であることを実感

ここまで書いてきたことは日韓の差異に基づく感想であった。しかし、ソウル大学の学生と話して課題や背景が似ている<sup>3</sup>、そして同じように物事を考えるという発見の方が強かったと思う。韓国では日本と積極的にかかわっていくべきという考え方と、そういう考え方に対して反対する考え方の2つが交差し、今のところ後者の考えの方が優勢であるとのことであった。お互いについて学ばば学ほど日韓両国の似ている面が浮き彫りになるとソウル大学の方から感想をもらったが、それは筆者も同じである。両国の差異を認めて面白いより、同質性を認めて東アジアの隣人として団結してグローバルの時代を乗り切ろうとする方が、この時代に生きる者として求められているのではないか。そのように感じた<sup>4</sup>。

討論をするうちに、日本語チームでは旧知の仲であったかのように意気投合し、なごやかに話は進んだ。また、今回集まっただけで終わるのはもったいないということで、後日改めて日本語チームで集まって食事会を開いた(8月5日 月島でもんじゃ焼)。次は日本語チームでソウル大学に行って韓国で意見を交わしたいなどと、おおいに盛り上がった。自分の人間関係に韓国の人加わり、ちょっとだけ国際人になったような気分になっている今日この頃である。

今回のイベントについては、東大現代韓国研究センターやソウル大学の皆様の強いご支援のもとに実現したものであります。日韓友好のいい機会を提供していただき、本当にありがとうございました。

以上

---

<sup>3</sup> ソウル大にも東大の進振り同様の制度があるなど、酷似している制度があり興味深かった。

<sup>4</sup> 今回個人的に一番おもしろいと思ったのは、韓国では現在、日本のアニメ『進撃の巨人』が大人気とのことであるとの話を聞いたことである。「兵役中のものでない限り、小さい子供からお年寄りまで老若男女の韓国国民が見ているはずです。あなたは日本人でネイティブの立場でこれを見ることができるという特権があるのだから、絶対見てください。」と言われた。かつて日本において『冬のソナタ』が大ブレイクして今の韓流ブームにつながったが、今回の『進撃の巨人』はブームというレベルを乗り越えて韓国全土で社会現象となっているとのことである。このアニメは、正体不明で圧倒的に強い巨人族に対し人類が立ち向かっていくという内容であるが、韓国国民は「巨人」にいろいろな思いを重ね合わせているようである。日本でもこのアニメは一定の人気はあるものの特定のアニメファンのみ的人气に留まる。韓国ではなぜこんなに人気が出ているのか、理由を考えてみるのもおもしろいかもしれない。

## <ソウル大学—東京大学討論会参加報告書>

巖 アルム【韓国語】  
教育学研究科修士1年生

### 生きている私たちが作る20年後

TVや新聞を見るたびに生まれた疑問、そして、その疑問を解くために、私は目上の人に会うたびに必ず伺いた。

「20年後には世代交代が起きて、今の若者たちが社会のあちこちで力を発揮するでしょ。そんな若者たちが持つべき資質とは何ですか？」

私は世代交代を考えてきたし、どのような資質を備えた若者であるべきなのかに対して疑問を抱いてきた。このような疑問を抱いたこと自体は、私自身が時代が望む若者としての資質を備えていたいという欲があることを意味し、何よりも「in the world」を最優先の価値として思いながら生きている私にとっては、自然な疑問であるかもしれない。このような私の質問に目上の人からの答えは異なったが、そのすべてのことを総合すると、一つの共通点があった。それは「生きている」ことであった。生命体で呼吸がなされている生物学的な意味での生きていることではなく、世の中への関心と世の中の流れに目を向け、そして、人々への関心であった。このような生きている態度は、現在の流れから未来を読み取り、その変化を呼び起こしたいという意志を持って来る。その意志は、世界の流れの中で、自分が本当に貢献できることは何かを常に工夫してしている態度と接続されると思う。そのような意志を持って生きている若者たち、ある詩人の詩のように、ピアノの鍵盤で十四、二十匹の魚が跳ね上げるような躍動感の呼吸、そのような元気に生きている若者たちにソウル大学 - 東京大学討論会で出会った。

多様な背景を持つ人々と話をすることは、人の状況と視野を広げる良い方法である。特に、日韓両国の若者たちと話をすることは簡単に得ることができないため、日韓の若者たちの話し合い場が用意されており、ここでの機会を享受するだけでも、十分意義があると思われる。我々は、敏感な内容について、全く敏感ではない態度で語り合ったし、柔軟に言葉を交わした。この過程で「管が民に追いついていない」ことを肌で感じた。討論会で会った日韓両国の若者たちが、お互いに意見を交わす過程を通して、彼らから真に生きていることがどんなことであるのかをわかるようになり、このように生きている若者たちなら、今の硬直した日韓関係は一步スムーズに歩んでいけるという貴重な指標を得た。今現在、両国で行われる見解の違い、温度差を私たちはためらわずに打ち明け、両国の明るい未来を描いていくことが可能であると考えられる。

日韓の政治チャンネルが詰まっっていて、政治家の私的な交流の頻度も少なくなり、日本語が自由に話せる韓国の国会議員も少数に過ぎない今の韓国政治の状況。マルクスを信奉することではないが、下部構造が上部構造を決定するという言葉を借りるなら、2013年現在、日韓の若者が作っていく下部インフラがしっかりしてスムーズに行われていることをこの目で確認した

ので、これからの20年後の日韓の上部構造もスムーズで健康的に変化することを期待することができると思う。我々若者は、硬直しておらず、世界という鍵盤の上で、まるで銀色の色彩を帯びた魚のようであるからだ。このような若者が作る日韓関係の温度を、討論会で事前に体感し予想した絶好の機会であったと思うし、「in the world」に向けて私自身も一歩成長したことを確認した瞬間であったと考えている。

討論会で出会った若者たちと20年後、元気な姿で日韓の舞台で会えることを楽しみにしている！

### 살아있는 우리들이 만드는 20년 후

TV나 신문을 보면서 들었던 의문, 그리고 그 의문을 풀기 위해 내가 어른들을 만날 때마다 하는 질문이 있었다.

「20년 후면 세대교체가 일어나, 지금의 젊은이들이 도처에서 능력을 발휘할 것입니다. 그런 젊은이들이 갖추어야 할 자질은 무엇입니까?」

나는 세대교체를 생각해왔고, 어떤 자질을 갖춘 젊은이어야 하는가에 대해 의문을 품어왔다. 이런 의문을 품었다는 것 자체가 나 스스로 시대가 원하는 젊은이로서의 자질을 갖추고 싶다는 욕심이 있다는 뜻이며, 무엇보다 「in the world」를 최우선의 가치로 여기면서 살고 있는 내게는 자연스러운 의문인지도 모른다. 이런 나의 질문에 어른들의 답은 제각각이었지만, 그 모든 것들을 종합해보면 공통분모가 있었는데, 그것은 「살아있음」이었다. 생명체에 호흡이 붙어있는 생물학적인 의미에서의 살아있음이 아니라, 세상에 대한 관심, 세상의 흐름에 대한 관심, 사람에 대한 관심이었다. 이런 살아있는 태도는 현재의 흐름에서 미래를 읽고 따라서 변화를 불러 일으키고자 하는 의지를 가져온다. 그 의지는 세상의 흐름 속에 자신이 진정 기여할 수 있는 일이 무엇인가를 끊임없이 고민하는 태도와 연결된다. 그런 의지를 가지고 있는 살아있는 젊은이, 어느 시인의 시처럼, 피아노 건반에서 열 마리, 스무 마리의 물고기가 튀어 오르는 것과 같은 생동감을 가진 호흡, 그런 건강한 살아있음을 느끼게 하는 젊은이들을 서울대-도쿄대 토론회에서 만날 수 있었다.

다양한 배경을 가진 사람들과 이야기를 나누는 것은 본인의 지경과 시야를 넓히는 좋은 방법이다. 특히 한일 양국의 젊은이들과 이야기를 나누는 기회는 쉽게 얻을 수 있지 않은데, 한일 젊은이들의 이야기장(場)이 마련되었고 여기에서 기회를 누린다는 것만으로도 의의가 있었다. 우리는 민감한 내용에 대해 전혀 민감하지 않은 태도로 유연하게 대화를 나눴고 이 과정에서 관(管)이 민(民)을 따라가지 못한다는 것을 피부로 느꼈다. 토론회에서 만난 한일 양국의 젊은이들이 서로의 의견을 나누는 과정에서 그들에게 진정 살아있음이 무엇인가를 알게 되었고, 이런 살아있음으로 무장한 젊은이들이라면 지금의 경직된 한일관계는 무한 진일보 할 것이라는 귀중한 지표를 얻었다. 지금 현재 양국에서 벌어지는 시각차, 온도차를 우리는 서슴없이 털어놓았고, 그러므로 지금 현재 우리가 무엇을 할 수 있는지를 고민했고, 뜨거운 생동감으로 우리는 어느새 양국의 미래를 그리고 있었으니 가능한 것이었다.

한일의 정치채널이 막혀있고, 정치인들의 사적인 교류의 빈도도 적으며, 일본인을 구사할 수 있는 한국 국회의원도 손에 꼽힐 정도라고 하니, 일본을 대하는 2013년 한국 정치의 태도는 차갑기 그지없다. 마르크스를 신봉하는 것은 아니지만, 하부구조가 상부구조를 결정한다는 말을 빌린다면, 2013년 현재 한일 젊은이들이 현재 만들어가는 하부구조가

탄탄하고 원활하게 이루어짐을 눈으로 확인했기에, 앞으로 20년 후의 상부구조 역시 유연하고 건강하게 변할 것이라는 기대를 해본다. 우리 젊은이들은 경직되지 않았고, 세상이라는 건반 위에서 은빛 색채를 띠는 물고기들이기 때문이다. 이런 젊은이들이 꾸려나갈 일한관계의 온도, 우리의 온도를 토론회에서 미리 체감할 수 있는 좋은 기회를 얻었고 또 하나의 「in the world」를 향해 나 스스로도 진일보 했음을 확인한 순간이었다.

토론회에서 만났던 젊은이들을 20년후, 건강한 한일무대에서 만나길 기대해본다!



## 「成長の循環」への第一歩

—東京大学—ソウル大学 学生討論・交流会 参加感想文

イヘッソ  
李海聖【韓国語】

文学部 行動文科学科 社会学専修課程 4年

学部留学生として東京大学に在籍しながら、私は「国際交流」というものが持つ力の大きさを感じる事が良くあります。そのような意味で、今回の討論・交流会に韓国語チームの司会・発表者として参加し、東京大学およびソウル大学の学生と交流ができたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。

両大学の学生が約10人ずつ、総じて19人で構成された韓国語チームは、日韓両国のマスコミについて意見交換を行いました。そして討論・交流会が終わった後にも、全チーム員はSNSなどで連絡を取り続け、別の日にまた飲み会を開くなど、さらなる交流を深めています。

一般に「国際交流」と言いますと、「外国の人・物に接し、それについて理解すること」という認識があるのではないかと思いますし、私もそれ自体には共感を覚えます。ただし私は、今回の討論・交流会を準備する過程で、その「認識」というものについて深く考えるようになったのですが、その中でも「なぜ外国の人・物を理解する必要があるのか?」、つまり「国際交流の目的」というものについて、特に興味を持つようになりました。

実は、考えられる目標は非常に多岐に渡ります。例えば、国家間のミス・コミュニケーションを減らすというような「国家レベルの目的」から、事業の海外進出のような「戦略的な目的」、私とは違う人との交流そのものを楽しむという「個人的な目的」まで、多様な主体による多様な目的が存在し得ると思います。その中で私は、「個人的な目的」、特に国際交流を通して「自分(の考え)を成長させる」という側面に注目しました。

国際交流を通して自分(の考え)を成長させるとは、外国の人と持続的な交流を行って彼から影響されることで、自分を振り返ってそれを成長の糧とすることを指します。そもそも人は、他の人と交流することで「この人は、こういう考え方をしてるんだな」、「この人のこういう部分は見習いたいし、こういう部分は嫌かも」などの考えを持つ機会が多くなると思いますが、それは、言い換えれば、相手の言動を鑑として

自分が成長できるきっかけが掴めることを意味するのではないかと思います。つまり、人は交流相手について理解することで、刺激を受けて自分自身を成長させることができ、また自分も交流相手の成長に影響を与えることができるという、いわば「成長の循環」を交流相手とともに作っていく、ということです。特に、国際交流とは、自分とは「異なる」背景を持つ人々との交流ですから、一般の交流に比べて多くのことを考えることで「成長の循環」の効果を極大化できるというメリットもあります。個人的な意見ではありますが、私は、この「成長の循環の極大化」こそ、「なぜ外国の人・物を理解する必要があるのか？」という疑問に対する最も標準的な答えになり得るのではないかと思います。

そのような意味で、私を含めた韓国語チーム、そして討論・交流会に参加した学生全員が得ることができた最大の成果は、自分とともに「成長の循環」を作っていく外国の友達(私の場合は、自分とは異なる学部時代を過ごした友達)ができたことではないかと、私は考えています。今後とも、この縁を大切に、彼らとともに「成長の循環」を拡大し続けていきたいと思っています。

## ‘성장의 순환’을 위한 첫걸음

### - 서울대학교-도쿄대학교 학생 토론·교류회 참가 감상문

이해성 【한국어】

문학부 행동문화학과 사회학전수과정 4학년

도쿄대에 학부 유학생으로 재학하면서, 저는 ‘국제교류’라는 것이 가지는 큰 힘을 새삼 느끼고는 합니다. 그러한 의미에서, 제가 한국어 팀 사회·발표자로서 참가하여, 서울대 및 도쿄대의 학생들과 교류할 수 있었던 이번 토론·교류회는, 저에게 있어 매우 뜻 깊은 시간이었습니다.

각 대학에서 약 10명 썩을 선발, 총 19명으로 구성된 한국어 팀은, 한일양국의 마스크에 대하여 의견을 교환하였습니다. 그리고 토론·교류회가 끝난 이후에도, 팀원들은 SNS 등으로 지속적으로 연락을 주고 받으며 따로 모여 술자리도 갖는 등, 개인적인 레벨의 교류도 계속되고 있습니다.

일반적으로 ‘국제교류’라 하면, ‘외국 사람·문물 등에 접하며, 그것을 이해해 가는 것’이라는 이미지를 가지시는 분들이 많을 것이라 생각되며, 저 또한 기본적으로는 그렇습니다. 다만 저는, 이번 토론·교류회를 준비하면서 그 ‘이미지’에 대해 깊이 생각해 볼 수 있는 기회를 가지게 되었는데, 그 중에서도 특히 ‘어째서 외국 사람·문물 등을 이해할 필요가 있는가?’, 즉 ‘국제교류의 목적은 무엇인가?’라는 점에 대해서는, 많은 생각을 하게 되었습니다.

생각할 수 있는 목적은, 실은 매우 다양합니다. 예를 들어, 국가간의 미스 커뮤니케이션을 줄인다는 ‘국가 레벨의 목적’으로부터, 사업의 해외진출 같은 ‘전략적인 목적’, 나와 다른 사람들과의 교류 그 자체를 즐기는 ‘개인적인 목적’까지, 다양한 주체에 의한 다양한 목적이 존재할 수 있습니다. 이 중에서 저는 ‘개인적인 목적’, 특히 국제교류를 통한 ‘자신(의 생각) 성장’이라는 측면에 주목하였습니다.

국제교류를 통해 자신(의 생각)을 성장시킨다는 것은, 외국 사람과 지속적인 교류를 가짐으로서, 그들에게 영향을 받아 자신을 돌아보고, 그것을 성장의 발판으로 삼는 것을 뜻합니다. 흔히, 사람은 다른 사람과 교류하는 과정에서 ‘이 사람은 이렇게 생각하는구나’, ‘이 사람의 이런 부분은 배울 점이고, 이런 부분은 피해야지’라는 등의 생각을 할 기회가 많아지는데, 그것은, 바꾸어 말하면 상대방의 언동을 거울삼아 스스로가 성장할 수

있는 기회를 잡는 것이라고 할 수 있습니다. 즉, 사람은 상대방을 이해하고 그것에서 자극을 받음으로서 스스로를 성장시킬 수 있으며, 자신 또한 상대방의 성장에 영향을 끼치는, 이른바 ‘성장의 순환’을, 교류하는 사람들과 함께 생성하는 것입니다. 특히 국제교류란, 자신과는 ‘다른’ 배경을 가진 사람들과의 교류이므로, 일반적인 교류에 비해 많은 것을 생각하게 됨으로서 ‘성장의 순환’의 효과를 극대화할 수 있다는 장점도 있습니다. 개인적으로 저는, 이 ‘성장의 순환의 극대화’야 말로, ‘어째서 외국 사람·문물 등을 이해해야 하는가?’라는 의문에 대한 가장 표준적인 답이 될 수 있지 않을까 생각합니다.

그러한 의미에서, 저를 포함한 한국어 팀, 그리고 토론·교류회에 참여한 학생 모두가 얻은 최대의 성과는, 자신과 함께 ‘성장의 순환’을 만들어 갈 외국 친구들(저의 경우에는, 제 자신과는 다른 학부시절을 보낸 친구들)을 만든 것이 아닐까 합니다. 앞으로도, 이 인연을 소중히 간직하며, 친구들과 함께 ‘성장의 순환’을 계속 확대해 나가고 싶습니다.

今回のディスカッションを通して、韓国から来た学生たちと有意義な意見交換をすることができました。わたしはもともと韓国人の友達でしたが、領土問題や歴史認識に関するような両国の微妙な問題は、普段なかなか話すことがありませんでした。この企画はとても貴重な経験になりました。

とりわけ困難を感じたのは、韓国でも日本でも国内に様々な意見を持った人がいるということです。今回日本に来た韓国のメンバーが日本にとっても興味を持っているようだったのはうれしいことですが、その一方で日本は先の戦争の反省が十分でないという不満を感じている人もいます。政府はそのような多様な世論に囲まれ、どんな方策をとっても一部の国民の反発を招いてしまうという難しい状況にあるのです。私が今までに会ってきた韓国人は今回も含めて、皆日本に対しては比較的良い印象を持っている方が多かったので、逆に韓国国民全体の日本に対する印象というのは、私が思っているよりも幾分厳しいものかもしれません。この問題に対して私はまだ有効な解決策を持っていませんが、韓国と日本の間で争っても何の得にもならないことは明らかだと思うので、この問題についてこれからも考えていきたいと思います。

また、中国がいかに重要視されているかも知ることができました。日本と同等、あるいはそれ以上に、韓国側は近年急速に台頭する中国の役割を重要視しているように感じました。中国の存在は一層韓日関係を複雑にする一方で、日韓関係を良い方向に持っていく可能性も十分にあると思います。二国間の関係だけでなく、より広い視点を持つ重要性を感じました。

私は、韓日双方の参加者や企画をしてくださった方々など、この素晴らしいイベントにかかわったすべての方に改めて感謝したいと思います。このような話し合いに参加したことがあまりなかったので、単に韓日間の問題だけでなく、互いの意見を発展させ、考えをより効果的に主張する方法を学びました。この経験をぜひこれからも生かしていきたいです。そして、この活動がこれからも続き、より多くの学生が韓国の学生とこのような素晴らしい体験ができるとよいと思います。

## SNU in Tokyo

【E1】 Abe Yoshihiro, Department of Law

Through this discussion, I can share some important topics with Korean students. I have some Korean friends in Japan and in Korea, but we usually tend to avoid the sensitive topics between two countries such as territorial issues or the problems of the attitudes toward our history.

I found one thing especially difficult. There are a variety of opinions in Korea and things are almost the same here in Japan. I felt happy because Korean members basically seem to present a big interest to Japan. On the other hand, some think that Japan hasn't given the enough apologizes and isn't a good country. The government always has to consider a variety of opinions, which makes it almost impossible to produce satisfaction of the entire nation. Including this event, almost all the Korean people whom I've met before were those who have relatively good impressions to Japan, so the situations must be much harder. I don't have the clear solution to this kind of problem, but will continue to engage it because I strongly believe that conflicts between Korea and Japan produce nothing beneficent.

Also, I found the importance of China. We talked about that and some Korean members seemed to regard China as a very important actor as we Japanese people do or more. Adding one more country makes the relation more complicated but more favorable to stabilize, I think. I'd like to keep the more perspectives because it is not enough only to consider bilateral relationship.

I would like to appreciate everyone related to this great opportunity, that is, organizers, SUN participants, and UT participants, as one of the members of English team 1. I have little experiences of taking part in this kind of discussion so I can learn a lot of things not only about the topic itself but also some manners to develop each other's opinion or to express what we think more effectively. I'd like to make a good use of it in the next opportunities. I hope this activity continues, which makes more and more students obtain the fruitful experiences with Korean friends.

僕は 3 つの理由からこのプログラムに申し込みました。第一に、日本語がわからない相手に対して英語でどの程度自分の意見を伝えられるかを知りたかったからです。次に、英語圏への留学に関心があったので、英語を使える機会を活かしたかったから、そして最後に、韓国の学生と交流を深めたかったからです。議論のチームは、英語チーム 2 つ、日本語・韓国語チーム各一つの 4 つがありました。私は英語チームに参加したのですが、議論のテーマが留学について去ったので、大きな関心を持って取り組むことができました。議論に向けて、私たちはメーリングリストを使ってチームのメンバーたちと連絡を取り合い、そのうちの数人で集まり議論をどう進めるかについて話し合いました。(私は話し合いに出席できませんでした。) 議論の前、私は少し緊張していました。というのも、私は英語力に不安があり、また議論の日にちが 8 月 2 日と試験期間の二日後であったため、あまり議論に向けて準備ができなかったのです。しかし幸運なことに、会場につくと、韓国の学生たちが私に話しかけてきてくれて、議論の前に仲良くなることができました。驚いたことには、多くの韓国の学生はいくらか日本語を知っており、中には流暢に日本語を話す学生もいた、ということです。おかげでコミュニケーションが円滑になりました。議論では、4 チームが同時に議論したせいで部屋が少し騒がしかったですが、進行役の方のおかげで、皆が積極的に意見を述べました。グループごとの議論の後で、メンバーの 1 人が討論言語でまとめを発表しました。

まとめ発表の後、会場でパーティーがありました。椅子がなかった分、自由に動き回って多くの人々と交流できました。

私はこのプログラムを、英語に自信がないけれども、韓国の学生と仲良くなりたい、という人にお勧めします。もしこのプログラムに参加すれば、きっと韓国と韓国の学生のことが、今よりもっと好きになると思います。

I applied to this program for three reasons. At first, I wanted to know how much I could express my opinion in English to those who did not know Japanese. Next, I had an interest in studying abroad in English area, so I wanted to seize the opportunity to practice English. At last, I wanted to make friends with Korean students.

There were four discussion teams: two English teams, one Korean and one Japanese team. I participated in English team and the discussion theme was about studying abroad, so I could work on it feeling a great interest.

For the discussion, we contacted with team members using a mailing list, and some members met in order to discuss how to facilitate the discussion.(In fact, I couldn't attend the meeting.)

I felt a little nervous before the discussion because I was anxious about my English skill and I did not prepare well for the discussion because the date of the discussion was August 2<sup>nd</sup>, two days after the examination term. But, fortunately, arriving at the venue, Korean students talked to me and I could make friends with them before the discussion. I was surprised that many Koreans knew some Japanese, and some Koreans spoke Japanese fluently. It helped us communicate smoothly.

In the discussion, although the room was a little noisy because four teams discussed at the same time, thanks to the facilitator, everyone actively expressed his/her opinion. After the group discussion, one of the members presented the summary in their discussion language.

After presenting the summary, we had a party there. There was no chair, so we could move freely in order to communicate with many people.

I recommend this program to those who are not confident with English skill but want to make friends with Korean students. If you participate in this program, you will like Korea and Korean students more.